

西条「つながり基金」誕生

四国初のコミュニティ財団

地域活性化へ市民団体支援



四国初のコミュニティ財団「えひめ西条 つながり基金」の設立を祝う関係者ら

西条市に四国初となる「えひめ西条つながり基金」が誕生し、設立記念式典が市地域創生センター(同市ひうち)であった。地域課題の解決に取り組み市民団体を、助成や運営相談な

どで支援する。コミュニティ財団はNPOや市民団体などへの支援を通じて地域活性化を進める組織で、近年全国で設立が増えているという。

14日の式典では財団の活動方針として、子ども食堂を市内に5カ所作る活動や、女性が住みやすいまちづくりの推進、外国人が住みやすい地域にするため

の調査への支援を発表した。活動テーマのうち水保全については、市民が話し合って課題を抽出し、勉強会などを通じて具体的なプログラムを組み上げる方針を示した。

同市では2017年ごろ、行政を中心に財団設立の検討が始まった。構想は民間が引き継ぎ、市内の商店街でコワーキングスペースを運営する「リスカール」や市民有志が、21年10月に準備委員会を立ち上げた。市内の企業や市民らから基礎財源に当たる300万円の寄付を集め、4月8日に一般財団法人として設立した。(高橋圭太)

二宮大洲市長が初登庁

2期目始動 豪雨復旧継続強調

8日告示の大洲市長が20日、市役所に初登庁し「道半ばの施策や市が抱える課題を解決



していくためにまちづくりの目標を掲げ、実現にまい進したい」と職員らに述べた。任期は20日から4年間。

二宮市長は午前9時半ごろ到着。大勢の職員に拍手で迎えられ、花束を受け取った。

職員への訓示では2期目の「二丁目一番地」の政策として、西日本豪雨からの復旧復興と安全安心なまちづくりを強調。「市民が健やかに安心して生活できる環境の整備が重要。若者が『大洲出身です』と胸を張って言えるように、活力ある大洲市を目指さなければならぬ」と呼びかけた。豪雨対応や新型コロナウイルス対策で尽力した職員をねぎらった。

(薬師神亮太)

職員に拍手で迎えられ、花束を受け取る二宮市長